

所 報

No. 38

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

も く じ

○ ハイテク時代に想う.....	1
○ 昭和59年度の研修事業の概括と昭和60年度の構想.....	2・3
○ 昭和59年度、研究紀要の概要.....	4・5
○ 研鑽を積む —— 長期研修生寸感.....	6・7
○ 指導のチェックポイント —— 高校社会・小学校学級経営.....	8・9・10
○ 教育実践研究記録の入選作品決まる.....	11
○ 私のすすめる一冊の本.....	12

ハイテク時代に想う

佐賀県 教育センター研修三課長 多久島 和



2月8日。この日の生徒実習は、センターからは県内最遠隔地区を擁する、ある工業高校3年生のクラスであった。1人の欠席者もなく早朝から来所して、予定の題材を仕上げ、午後3時過ぎ「お世話になりました」と元気なあいさつを交わして、さわやかに去って行った。

本年度高校3年生の授業切り日前日のことであった。

教育センターに情報処理教育施設ができて3年目、この間学校側及び関係機関の並々ならぬ配慮によって、ここでの生徒実習は順調な歩みを続けて来た。ハイテク元年といわれる今日、生徒たちの極めて意欲的な実習態度に、さすがに彼等は現代っ子であるとの感を強くした。

現代は科学・技術・産業の大変革の真ただ中にある。これからの1年は過去の百年に相当するともいわれ、エネルギー・新素材・医療・生命・工学・ニューメディア・ロボット・コンピュータなどの各分野の技術は日夜目ざましい進歩を遂げつつある。反面これらの先端技術の利用を一步誤れば、衛星戦争や自然破壊など今日の文明社会を一挙に崩壊させかねない危険性をはらんでいることも識者の指摘するところである。

この両刃の剣を如何に制御するかが、私たちに課せられた最大の問題であろう。

この文明社会存亡の危機に直面して想起するのは、慈遍（鎌倉時代末期から南北朝時代ごろ活躍した学僧）の「神代は今に在り。往古を謂う莫^{なか}れ」、「天地は外に在らず。開闢^{かいびやく}は己れに在り」という主張である。

人間の尊さはその内なる靈性によるのだという人間観が、わが国には古くからあった。だから多くの先達は、己れの靈性の開顕を人生の最大の目的として、命を懸けて研鑽と修養に励みこの「道」を求めてきたのである。

「開闢在己」は時空を超越したものであり、各自の自得にまつほかはない。しかし、この人間の尊さが人びとに自得されない限り、真の平和はもたらされないであろう。

現代社会の大変革が進む中での教師の在り方は、教師自身がまずこの大変革に相応するよう、理性的・精神的・道義的に真の人間として変容することが望まれる。そしてその教師の役割は、子供たちを冒頭の事例のように、清く明るく健やかな学習ふん囲気の中で、これからの社会の担い手として、彼等の測り知れない素質や能力を啓発・善導するとともに、正しい徳性と良い習慣を身につけさせることにあると考えられる。

ここに「自己教育」の必要性が叫ばれる所以もあると思うのである。

昭和59年度の研修事業の概括と 昭和60年度の構想

☆ 短期研修について

1. 昭和59年度の概括

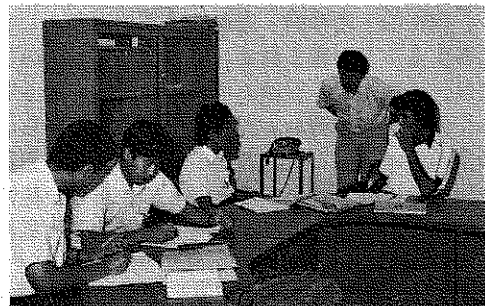
本年度の短期研修講座では、① 教職員の資質の向上に寄与する効果的な研修、② 教育指導上の課題、学校の要望に応える研修、③ 教職員が意欲的、主体的に参加できる研修等を柱として102講座を設定した。受講者は、前年より224名増加し2,772名となった。

(1) 短期研修講座の領域別、校種別受講状況

講座の領域	校 種	講座数	定員	受講者数
教 科 国、社、算・ 数、理、英、 音、図等	小 学 校	22	609	632
	中 学 校	13	249	246
	高 等 学 校	13	219	271
	合 同(小中高)	3	75	66
経 営 道徳、特活、 へき地工学、 評価、機器、 学校・学級経 営、事務等	小 学 校	8	230	281
	中 学 校	6	120	179
	高 等 学 校	6	140	200
	合 同	6	140	162
指 導 相 談	幼 稚 園	1	50	78
	合 同(小中高特)	12	392	549
情 報 処 理	商・工業高校	12	113	108
総 合 計		102	2,337	2,772

(2) 短期研修講座受講感想

ア…よかった。イ…どちらともいえない。
ウ…よくなかった。



外人講師を招いての英語講座

校 種	回 答 者 数	全 体 感 想					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼稚園	65	49	75.4	15	23.1	1	1.5
小学校	828	750	90.6	70	8.5	4	0.5
中学校	369	317	85.9	50	13.6	2	0.5
高等学校	519	481	92.7	33	6.4	0	0.0
合 同	550	492	89.5	53	9.6	2	0.4
合 計	2,331	2,089	89.6	221	9.5	9	0.4

校 種	回 答 者 数	講 座 の 内 容					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼稚園	65	45	69.2	20	30.8	0	0.0
小学校	828	734	88.6	88	10.6	3	0.4
中学校	369	310	84.0	56	15.2	2	0.5
高等学校	519	466	89.8	47	9.1	1	0.2
合 同	550	480	87.3	67	12.2	2	0.4
合 計	2,331	2,035	87.3	278	11.9	8	0.3

校 種	回 答 者 数	講 師					
		ア		イ		ウ	
		人数	%	人数	%	人数	%
幼稚園	65	50	77.7	14	21.5	1	1.5
小学校	828	721	87.1	100	12.1	3	0.4
中学校	369	338	91.6	29	7.9	0	0.0
高等学校	519	466	89.8	48	9.2	0	0.0
合 同	550	475	86.4	68	12.4	4	0.7
合 計	2,331	2,050	87.9	259	11.1	8	0.3

(3) 講師等

地 域		59 年 度		60年度
		計画	実績	計画
県 内	大 学 等 (佐大他)	75	88	85
	教職員、教育庁関係	190	168	175
県 外	九 州 内 大 学 等	35	26	35
	関 西 以 西 大 学 等	20	18	20
	関 東 地 区、以 西	10	5	10
総 計		380	305	325

広く全国各地から、それぞれの分野の著名な研究者、実践家を招き、講座内容の充実を図っている。

(4) 受講後における現場での利用状況……

425人
○ 毎日の授業の細部にわたって役立っている。(教材内容の分析、解釈、教科等、領域の指導、広い視野からの指導方法とその工夫、資料・教具の製作とその活用、実験指導案の立て方、教育相談、実技、実習、機器の製作とその活用、年間指導計画と細案、教育課程の編成、生徒指導、評価等)
○ 校内研修や研究授業に役立っている。
○ 学校管理や教頭の職務の遂行に役立っている。

2. 昭和60年度構想

(1) 具体的方針

- ① 教育指導が教師に負うことを確認し、効果的な研修を行う。
- ② 研修内容の改善・充実を図り、教育指導上の課題や学校の要望にこたえる、実践的研修を行う。
- ③ 研修方法を創意工夫し、多様な方策を創出し、意欲的、主体的活動を促す研修を行う。

(2) 短期研修講座の計画

校 種	講 座 数	受講定員
幼 稚 園	1	50
小 学 校	31	869
中 学 校	20	394
高 等 学 校	27	387
合 同(小中高特)	23	657
計	102	2,357

領域別講座数及び受講者定員

領 域 等	講座数	講座日数	受講定員
教科関係講座	58(1)	139	1,202
教育経営関係講座	27	77	690
指導相談関係講座	11(2)	78	352
情報処理関係講座	11(3)	93	113
計	102	382	2,357

() 断続研修

(3) 特 色

① 新設する講座

- 中学校音楽実技講座……定員 20名
 - 高等学校芸術科(美術)講座…15名
- 人間性豊かな児童、生徒の育成における情操教育の重要性と、教育現場からの要望をふまえ、この講座を新設した。

(4) 宿泊日の設定

2日～5日間の講座期間内で、原則として1泊ないし3泊の宿泊を設けている。この宿泊日の夜の自主研修で、お互に日ごろの教育実践上の悩みや諸問題について意見交換を行い、これからの教育実践に役立てたいものである。

受講者は都合のつく限り宿泊して、県内各地の教職員との交流により親睦を深められることをおすすめしたい。

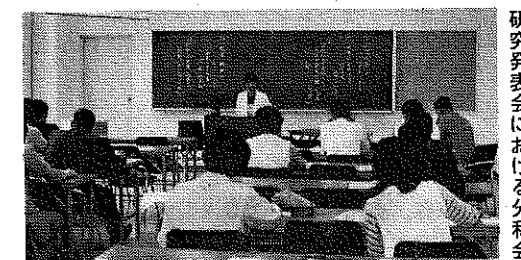
3. さいごに

児童、生徒を望ましい人間に育てるためには、教師は教育の内容、方法について高度な知識と専門的な技術及び社会人としての教養を身につけていなければならない。

「教育は人なり」「進歩する教師こそ教師の資格がある」といわれている。そのためには日ごろのたゆみない研修が必要である。

教育センターでは各領域にわたり102の講座を設定しているので、教師としての力量と高い教養を身につけるために、大いに活用されることを願うものである。

研修一課教育経営係長 (坂本健一)



研究発表会における分科会

昭和59年度 研究紀要の概要

本年度当教育センターの研究は、15の主題を設定し、そのうち7つの研究を「研究紀要第9集」に収録して紹介します。研究に当たっては、県内の先生に研究委員として協力していただき、学校の教育課題と密着した内容となるように努めました。この研究紀要は、今年4月に各学校に配布されますが、先生方の教育活動の充実・改善のために活用していただきたいと思います。

地理的学習における読図能力を 高める指導のあり方

——地図帳を生かした指導を中心に——
(小・中社会)

身近な地域から世界に広がる地理的学習において、地図帳は不可欠な教材・教具であり、重要な資料となる。しかし、学習を進めるにあたっては教科書中心の授業に陥り易く、多くの情報資料を内容とする地図帳の十分な活用が困難で補助的な手段となりがちである。

そこで、児童・生徒の地図に関する意識及びその活用、読図についての基礎的理解の実態把握の上に立って「地図帳を生かした指導」のあり方を授業を通して探ってみた。小学校では地図帳をみる楽しさを身につけさせることを目指した学年はじめに特設して行う地図指導のあり方、中学校では興味をもって取りくませる地図帳活用及び地図帳を活用してとく予習課題のあり方について考察している。

個の学習を成立させる学習シス テムの工夫

——一斉、グループ、個別学習システムに
ついて—— <図形領域> (小算・中数)

算数・数学は学力差が大きくなる教科の一つにあげられている。この問題に対する研究がいろいろなされている。当センターでも個の学習を成立させるための学習のあり方を探ることが必要と考え、そのため、昭和58年度から学習システムの研究をしてきた。前年度の数と計算(数と式)と領域にひき続き、本年度は図形領域について

- ① 個の学習状態のちがいに応じてどう指導したらよいか。
- ② そのための教材をどう組み立てるか。
- ③ 一斉、グループ、個別学習を単元指導計画にどう位置づけるか。

実践授業を通して考察した。

読解力をつけるリーディング指 導のあり方

——音読・黙読・内容理解とその評価につ
いて—— (中学英語)

読む力は読むことによって養われると言われている。読解力をつけるためには、先ずできるだけ多くの英文を読ませることが必要であるが学校の授業で、教科書以外の英文読み物を取り扱うのは、時間的にも大変困難である。

このような状況の中で、いかにして読解力をつけるか。この課題に取り組むには、生徒の読みの実態把握が前提となろう。

この研究は、中学3年生の読みの実態調査をもとにして

- ① 黙読速度と内容理解との関係
- ② 発音と内容理解との関係
- ③ 長文の和訳と英問英答・日問日答との関連の調べと、内容理解度の評価のあり方について、分析・考察をし、リーディング指導の手がかりを示したものである。

高等学校新教育課程の実践と課題

——高等学校1年次における学習内容と
指導計画——

(高校5教科)

新教育課程の趣旨に基づく高等学校1年次の国語・社会・数学・理科・英語の5教科における学習内容を、学習指導要領・教科書教材の分析を通して明確にしていき、指導計画の概要を探索していった。

「国語1」の学習内容と指導計画の要点について

——教材分析の視点と学習指導案の作成——
具体的な教材の分析によって、学習指導案を作成し、研究授業を通して授業分析を行った。
「現代社会」の学習内容と指導計画

学習指導要領に基づき、年間指導計画案を作成し、5つの内容について、中学校との関連をふまえた授業計画案を示した。

「数学Ⅰ」における基礎的・基本的内容の定着をめざす学習指導——関数領域を中心に——
「数学Ⅰ」の学習における基礎的・基本的内容を明確にするとともに、「数学Ⅰ」の指導のあり方を探求した。

「理科Ⅰ」指導における基礎的・基本的な内容・実験・観察等について

「理科Ⅰ」の基本的学習内容及び実験について、授業実践を通して明らかにした。

「英語Ⅰ」学習指導の工夫

「英語Ⅰ」学習指導の現状と課題を踏まえ、「英語Ⅰ」学習内容の基礎的・基本的事項について、言語活動および言語材料の両面から考察した。

教育センター周辺における野外 観察実習地の設定

——河川敷の植物・社寺林を中心に——
(理科—生物)

嘉瀬川の河川敷・教育センター周辺の社寺林を調査し、野外観察実習地として開発したのでそれについて簡単に紹介する。

河川敷は、一般には植物の生育には、かなり条件が悪いのに、どのようにして生活しているか。また、どのような植物がどのように分布しているか等について、上流と下流の2地点で調査し、比較を行った。

社寺林は、現在も「鎮守の森」として残されている数少ない常緑広葉樹林である。この社寺林を調べ、森林の階層構造(高木層・亜高木層・低木層・草本層)や植物どうしの関係、植物と環境(特に日光の量と草丈)などを明らかにした。また林床の幼植物を調べ、この森が将来どうなるか等についても考察した。

県内各地の自然観察ルートの設定

——多久・黒髪山・唐津(湊・七ツ釜)——
(理科—地学)

今回は次の3地域について紹介した。

多久：露頭が多くいろいろな地層の様子が見られ、自然観察ルートには好適地である。小学校での野外実習の一例として、今出川を中心とした「流水の働きと地層」を取り上げた。

黒髪山：少年自然の家を利用するために登山



(研究委員会——教育経営・小学校部会——)

によく利用されるので、その際、黒髪の岩石や地層の観察指導ができるように取り上げた。

唐津(湊・七ツ釜)この地域は観光地として有名であるが、ただ珍しいということではなく火山活動や海水の働きによって形成された立神岩・七ツ釜を野外学習の場として取り上げた。

誰にでもわかりやすい説明を加え、野外学習の一環として、誰にでも活用できる自然観察ルートの例を取り上げて紹介した。

学習効果を高めるビデオ教材制 作の改善の視点

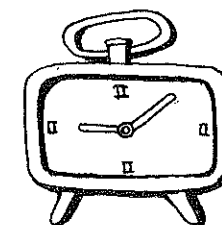
(高等学校理科Ⅰ) ビデオ教材の評価を通
して (教育工学)

昭和58年度より、高等学校理科Ⅰの実験教材のビデオ化を進めている。昨年は「力とエネルギー」分野の2つの実験をビデオ化した。実際、授業で使うまでには至らなかった。

そこで、昨年制作したビデオ教材を活用した授業を実施し、ビデオ教材に対する生徒のアンケート調査を行った。

この調査結果から、ビデオ教材のできばえに対する生徒の価値づけが、理科実験に対する興味の増減に大きく影響を及ぼしているといえる。

また、実験に対する興味と、各調査項目とをクロスさせ、それらの間の関連をみることによって、実験学習への意欲を高めるためのビデオ教材制作改善の視点を探り出している。



長期研修生寸感

研 鑽 を 積 む

本年度は、28名の先生方が長期研修生として入所された。ひたすら研修に専念されているその先生方の実り多い研修も仕上がり段階に入っている。本年度は、各人自らの研究テーマの完遂はもとより、更に「幅広い視野に立っての研修」を合い言葉に、研修生全員が教育課程、学級・HR経営、教育評価、教育相談、生徒指導、または情報処理などの基本的なことからについての研修をなされた。以下は、研修途上の小さなつぶやきである。

充 実 感

若楠小学校 川原田賢二郎

幸せである。朋輩と語らい、書物の中の先達を師友とし励み、指導の先生方の薫陶を受け鍛えられる事、文献を読み思索する時がある事を幸せに思う。この研修を契機とし学ぶ喜びを分かちつゝ、いざ帰らん子等のもとへ。

研修にみる

大浦小学校 中原 稔

谷底へ転げ落ちながら無知の酷さに驚き慌てた自分。英知豊かな所員の先生方のご指導を頂くも崖は思いの他高い。まだ道は遠く、険しい崖の上に見える教室の子供達。崖下の苦しみを持って一歩一歩近づくより途はない。

研修に来て

大野原小学校 太田 保男

研修に来て4か月経過、子供達の顔が見え隠れする。生涯の中でこれ程短期間に鉛筆と消しゴムを使用した事はない。自分の勉強不足を痛感するのみ。センターの先生方の懇切丁寧な指導に救われている今日此頃である。

マイコンとソフトボール

麓小学校 天野 昌明

今、自分の目的である研修以外にも、昼休みのソフトとマイコンに熱中している毎日である。「幅広い研修を…」との長研係の先生方の言葉を聞き、現場とはなれての研修のありがたさと、意義を痛感し、感謝している。

感 化

本庄小学校 横尾光一郎

中高年層のマイコンアレルギー。私も同類。ワープロですら寄せつけず。だが、情報、評価の先生方の指導、さらに、長研生間に沸き起こる熱烈なるマイコン旋風。少しは身近に感じる今日この頃である。

自然に生きる植物

上峰小学校 田中 俊典

学校周辺の植物の教材化を進めてきたが、植物の種類の多さに驚くと共に、自然の環境に応じて生きようとする生命力の強さと素晴らしさに感動を覚えた。今後、なおいっそう植物への理解を深めていこうと考えている。

教科書を再認識

脊振小学校 永瀬 謙

教科書の教材教具を分析すればするほど、その研究の深さが見えてくる。工夫することの難しさを思い知らされながらも、暇さえあれば考えてきた6か月。今後も児童の側に立った教材教具のあり方を考えていきたい。

長期研修寸感

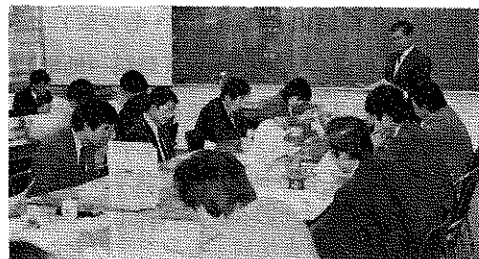
基里小学校 渡辺 直也

行事、給食、会議などの言葉を忘れる程、静かな毎日。たったひとりでの研究には、常に不安がつきまとう。しかし、周囲の長研生の先生方の姿に励まされ、なんとか自分の研究も少しずつ前進しているような気がする。

研修雑感

新栄小学校 大坪 康浩

当センターでの大きな収穫の一つは、なにより多くの参考文献を読破できたことだろう。これを機会に、今後益々真摯かつ謙虚な姿勢で



長期研修生、朝の集い

もってより多くの研修を積み、自己の向上に努めようと思う。

意義ある体験

相知小学校 吉野 和彦

取り組みたいことに集中できる良さを知った。無から有への過程は、産みの苦しみ。有型化した時は、最高の喜び。多種多様な学習理論に触れ、全国の豊富な実践資料を知り得たことは、実に貴重であり追試したくなる。

所 感

伊万里中学校 小野原保子

静かな緑多い環境のもと、自分の無知無学にあきながらも、毎日が新しいものとの出会いに恵まれ、心踊らせる日々を送っています。このような機会を与えていただき、十分な成果を上げられぬ心苦しさを感じながら。

雑 感

嬉野中学校 浜野 孝幸

研修終了まであと一月半、いくら力んでも自分の能力が急に伸びるわけでもなく、マイペース、マイペース。来年度からの授業で、この研修の成果が問われると思うと、そろそろしい気がしてくる今日この頃。

ハングリー精神

城西中学校 田代 勝

窓を開けるとそこに別世界がある。「小鳥の鳴き声。四季おりおりに変わる山の顔……」。そんな環境の中での研修は、「ハングリー精神」でないと進まない。そんな時に、「子供の声が聞こえると」学校が懐かしい。

学ぶよろこび

武雄中学校 長森 君代

未知のものを学びとることは何と楽しいことか。新鮮な感情・広がる心……。

この「学ぶよろこび」を日々の実践の中ではたして子どもたちに保証してきたか。あの個性のちがうひとりひとりの子どもたちに。

子どもたちとのかかわりを多く

黒川中学校 藤井 汎

カウンセラーとして、セラピストとして、共に信頼し、共感しあったこの経験を子どもたちとのふれあいの中で生かしたい。そして今まで以上にかかわりを密にし、全力をあげて頑張っていこうと思う。

半年間をふり返って

鹿島西部中学校 松尾 英樹

小鳥の声を聞きながら、静かな環境で研究できる幸福感を味わった。勉強勉強で、賑やかな

学校が恋しくなったりした。今は報告書かきに追いたてられて余裕がない。とにかくここに来て、幅広い人間になれたように思う。

昼休みのソフトボール練習で感じたこと

太良高等学校 梶原 彰夫

野球の顧問をしてきて、教えることの難しさを感じていたが、ウィンドミルピッチングの指導を受け、習うことの難しさがわかった。今後、「習うことの難しさ」の気持を理解して「教える」ことを授業の中に生かしたい。

長期研修に来て

塩田工業高等学校 本山 和明

研修も後1か月、入所時は不安でありましたが、所員の先生方の暖かい御指導の中で充実した研修を続けることができ、大変有難く感じています。今後の教師生活にこの研修を最大限に活かさなければと思うこの頃です。

書くことの難しさ

唐津西高等学校 田中 義政

毎日考えては書き、書いては考え、書いては消し、消しては書きである。一つのことに集中して考えて書くということがこんなにも苦しいことかと知ったのはセンターにくるようになってから。これも生徒のため頑張ろう。

生 態

鳥栖工業高校 土師 啓利*

画面をのぞく、キーを打つ、後手でうろうろ歩き回る、イスにのけぞる、腕を組む、頭をかしげる、頭をかく、背伸びをする、素振りのすぶりをする、紙にしきりと書付ける、ウーンと考え込む、ニヤリと手を打つ。

情報処理を学んで

杵島商業高等学校 田中 正幸

緑多き葉隠の里、大和路の一所において、情報処理を学ぶことができましたことをありがたく思います。まだまだ未熟であり自分なりに学習していき、生徒へ充実した授業ができるように頑張りたいと思います。

長期研修生28名の内訳は、小学校10名、中学校6名、高校12名（うち8名は3か月研修）である。次に掲げる方は、すでに3～6か月の研修を終了し現場復帰されているため、寸感の原稿を入手できなかった。（敬称略）

○織持佳明（鳥栖工高） ○斧本裕二（唐津商高） ○大串繁樹（有田工高） ○山崎一夫（鹿島実高） ○大家康正（多久工高） ○御厨康司（佐賀工高） ○今泉一彦（佐賀商高）

—— 指導のチェックポイント ——

—— 高 校 社 会 ——

地理学習における資料活用の工夫

1. はじめに

高等学校学習指導要領 社会の第三款には「指導の全般を通じて、地図や年表を読み、かつ作成すること、各種の統計、年鑑、新聞、読み物、その他の資料に親しみかつ活用すること……」と述べられている。これは、講義中心の受け身の授業を、資料活用を図るなかで、生徒自らが活動する自発的、積極的な学習へ改善することを求めているものと言えよう。

従来までの地理学習においても、地図帳や統計表等、さまざまな資料が取り扱われてきた。その際、学習のねらいによって資料活用のしかたに違いがあることは当然である。そこで、地理学習における資料活用について整理してみたい。

2. 資料活用の留意点

学習に資料を取り入れるだけで、受け身の授業から生徒が自ら考え積極的に参加する授業に変わるものではあるまい。資料が十分に生きて働くためには、以下のことに留意することが大切である。

(1) 資料の精選を図る

生徒は、地図帳、統計表、学習資料等を持ち、さらに教師の手作りの資料を与えられる場合が多い。そのため、生徒は資料を探したり、それを見ることに追われ、地理の授業は大変いそがしいとの感想をもっているものが多いようである。資料活用のねらいを明確にし、学習指導するうえでぜひ必要な資料か、さほど重要でない資料かを検討し、資料の精選を図り、資料を読み考える時間的な余裕を与えたい。

(2) 資料活用を学習過程に位置づけ、資料提示の適時性を図る。

資料を活用するねらいとして、次のことが考えられる。

学習過程	資料活用のねらい	資料の種類
導 入	◦興味・関心を高める	読み物資料、写真
展 開	◦課題意識をもつ ◦課題を解決する ◦事実を確認する	統計表、分布図、統計地図
まとめ	◦学習を整理する	分布図

上表に掲げた「資料の種類」は一例であり、一時間の授業展開のなかでは、課題意識をもたせるために読み物資料を提示したり、事実確認に写真資料を活用することもあろう。その際、地理学習が「世界の人々の地域的特色とその動向」を理解させることをねらいとしていることから、単元のまとめの段階では、地域的特色の理解を促す地図資料の活用が望まれるのではなかろうか。

(3) 生徒がもっている資料を活用する。

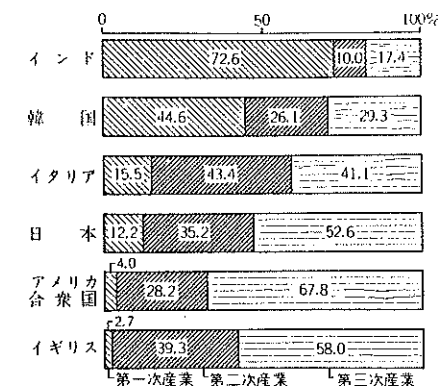
生徒の身近にある資料は、教科書や地図の分布図や統計図表であろう。特に統計については、年度により数値が異なることが多いが、教科書等の記載の年度と現在との間に順位や傾向にほとんど差異がなければ、あえて新しい数値を提示することはあるまい。このような意味から、できるだけ教科書や地図帳を活用する工夫が必要であらう。

(4) 資料選択の能力を育てる工夫をする。

最近の情報(資料)過多のなかで、どの資料を読みとるかによって導かれるものは異なるものである。また、いくつかの資料の組み合わせによって新しい結論を導くこともできる。従って、的確な資料の選択が重要である。そのためには、それぞれの資料を正しく読みとることが前提となる。

3. 教科書資料の活用例

(1) 図表の例



主要国の産業別人口構成

人口現象を自然的、社会的環境の総合的な反映としてとらえさせる。そこで次のような活用が考えられよう。

- ① 産業別人口構成を、どのように類型化できるか、地図帳の統計表を並用して考えさせる。
- ② 世界の食糧基地である合衆国と輸入国であるインドについて、この人口構成をもとに、両国の農業の特色を考えさせる。

(2) 地図資料の例

下の図は、西ドイツのルール地方の工業小学校学級経営

学級経営評価の改善の視点

1. 私にも通知表をください

「この通知表を前に、もう2時間も何もせずに座っとつです。この一年間のことを思い出しては、一人で笑いながら……」

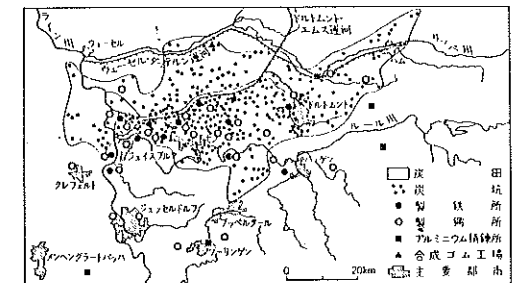
つり銭を渡しながら、煙草屋の奥さんが話しかけた。見ると「私にも通知表をください」の標記で、父母から教師への通知表依頼だった。

自分のお子さんを見つめて思うことを書いてください。(思わない) (思う)

- | | |
|----------------------------|---------------|
| (1) 学校に仲の良い友だちが多くいると思いますか。 | 1 2 3 4 5
 |
| (2) 楽しい学校生活を送っていますか。 | 1 2 3 4 5
 |
| (3) 学校のことを家でよく話す方だと思いますか。 | 1 2 3 4 5
 |

地域を示している。地域図は、地域の特色を把握するのに有効である。この場合、次のように活用できよう。

- ① この地域がヨーロッパのどこに位置しているか、一般図のなかで押さえさせる。
- ② ルール工業地帯の立地条件、工業の種類を読みとらせる。
- ③ ジュイスブルクの地理的位置を考えさせる。
- ④ ライン川の果している役割を考えさせる。



4. おわりに

以上述べたことは、特に変わった方法ではないが、人の生活を忘れた社会科授業とならないためにも、資料資料の一層の工夫が望まれるのではなかろうか。(所員 白川武人)

- | | |
|---------------------------|---------------|
| (4) 勉強をよくする方だと思いますか。 | 1 2 3 4 5
 |
| (5) 正しい言葉づかいができる方だと思いますか。 | 1 2 3 4 5
 |
| (6) 先生との仲はうまくいっていると思いますか。 | 1 2 3 4 5
 |

子どもの学力の伸び、学級の仲間との協力関係、基本的な生活態度の形成等は、学級の風土によるところが大きい。学級担任が中心となって作りあげていった学級の人的・物的・運営的諸条件が、そのような結果を生んだのである。

その結果をできるだけ正確に捉え、その原因を明らかにして、次年度の改善に役立てるのが、この3月の評価活動である。

主観的になりやすい結果の把握を、いくらか

でも客観的なものにするため、父母や児童、さらには同学年教師の目を借りようとする学級担任教師の謙虚な心が、学級運営の評価を改善する第一のポイントであろう。

2. 評価項目と評価基準の設定

学級経営の評価は、学級教育目標を起点に、学級経営案によって具体化された計画の評価である。それ故に、評価の対象や領域、あるいは実施の時期は学級経営案で決まる。しかし、こ

《例》学級経営評価基準表

中項目	小項目	評価の観点	評価・所感
			+ 1 0 - 1
I 学習の場づくり	学習の構えづくり	① 学習前の心構え、在り方ができているか。	_____
		② 学習時の約束が守られ実行されているか。	_____
		③ 学習後の復習、予習を効果的にしているか。	_____
	学習環境づくり	① 学習形態の改善、工夫が常になされているか。	_____
		② 学習意欲を起こさせるような掲示等を工夫しているか。	_____
		③ 学級内の整理整頓が常にされているか。	_____
	学習指導のポイント	① 一人ひとりを生かすことを考え実施しているか。	_____
		② 主体的学習をさせるよう工夫しているか。	_____
		③ 個人指導を効果的に取り入れているか。	_____

3. 適切な評価技術を選ぶ

「できた」「できない」で評価する達成目標と「前よりはよかった」「こんな傾向に変わった」等の志向目標では、評価法を違えなければ、役に立つ情報は引き出せない。例えば、学級集団の風土の評価は、SD法が最適である。

この学級をあなたはどのように考えますか

明 る い	5 4 3 2 1	暗 い
話しやすい	_____	話にくい
やさしい	_____	かた い
積極的な	_____	消極的な
おちついた	_____	うわついた
あたたかい	_____	つめた い
協力的な	_____	自分勝手な
すぐれた	_____	おとつた
けじめのある	_____	けじめのない
静 か な	_____	さわがしい
やる気がある	_____	やる気がない
楽 し い	_____	苦 し い

学級経営の評価技術に適したものは、教師の観察及びチェックリストと、児童の自己評価

の3月の評価は、その学校のどの学級でもおさえておかななくてはならない学級経営の基本を項目として設定し、より客観的な評価の基準を用意することが望まれる。低調な学級経営の評価を活性化する大事なポイントである。

その際、評価基準は、その学校の教師間で、少なくとも共通理解が持てるよう、つまり、誰もが一義的に解釈なり、判断ができる基準を設けることが肝要である。

(チェックリスト、質問紙法)と考えられる。教師が評価して児童に生かすよりは、児童が自ら評価して自らに生かす方が、時間的にも速いし、教育の論理にも適している。しかし、自己評価には、過大あるいは過小評価の欠陥があり、訓練をする必要がある。このことを多数決で補正するものが、ゲス・フー・テストである。その他、感想文や作文も使える。

4. 評価結果を生かす

学級運営の評価は、達成できている児童、達成できていない児童とを区別することが目標ではない。達成できている児童には、それから先の目標を持たせる指導を、達成できていない児童には、達成できるような援助を確実にすることが目的だと考える。

志向目標についても、結果にこだわり過ぎると、評価のための評価になって、評価本来の姿である、指導のための評価になり得ない。支持的風土をめざしているのに、防衛的風土の様相が表れたら、「なぜそうなったか」にあくまでこだわり、授業、係り活動、組織、人間関係等の中から原因を探し出し、「ではどうするか」を考え、実行に移すこと、これが学級経営の評価の目的である。(研究員 末次 晃)

昭和59年度

教育実践・研究記録の入選作品決まる

当教育センターが募集していました昭和59年度「教育実践・研究記録」の応募状況は下記のとおりでした。

小学校	14編
中学校	8 "
高等学校	1 "
特殊学校	1 "
計	24 "
これを教科・領域等別にみると、	
小学校国語	3編
小学校社会	1 "
小学校算数	3 "
小学校音楽	1 "
小学校体育	1 "
小学校特別活動	1 "
小学校学級指導	1 "
小学校学級経営	1 "
小学校特殊教育	1 "
小学校学校経営	1 "
中学校社会	1 "
中学校理科	1 "
中学校音楽	1 "
中学校特別活動	2 "
中学校学級経営	1 "
中学校生徒指導	1 "
中学校教育相談	1 "
高等学校教育相談	1 "
特殊学校特殊教育	1 "
計	24 "

以上24編の応募作品について、慎重・厳正に第一次審査及び第二次審査が行われ、次の5編が入選と決まりました。

なお、この入選作品は、佐賀県教育センター「教育実践・研究記録集No.6」として公表し、各学校へ配布する予定です。

＜入選作品＞ (順不同)

○意欲をもって取材し、文章を構成していく子どもを育てる指導

佐賀市立本庄小学校

教諭 築山 正純

○生き生きと文章表現をしたり、話をしたりすることができる子どもをめざして

佐賀市立嘉瀬小学校

教諭 権藤 順子

○一人ひとりの豊かな人間性を育てる教育実践——鳩グループによるたてわりそうじの指導

佐賀市立勸興小学校

教諭 西田 路子

○イオンの移動についての一考察

佐賀市立城北中学校

教諭 森 潤一郎

○自発性の開発と人間的交流を深める生徒活動をめざして

伊万里市立大川中学校

教諭 森 哲也

今年度の最終審査は、次の方々をお願いしました。(敬称略)

池 田 貞 美

(佐賀大学教育学部教授)

西 山 友 男

(多久市教育委員会教育長)

原 俊 一

(佐賀県立小城高等学校長)

川 崎 忠 則

(佐賀大学教育学部附属小学校副校長)

釈 憲 正

(佐賀県教育委員会教育次長兼学校教育課長)

前 田 和 茂

(杵西教育事務所長)

庄 島 奎 介

(佐賀県教育センター所長)

岩 村 政 浩

(佐賀県教育センター次長兼研修一課長)

伊 東 鋼二郎

(佐賀県教育センター研修二課長)

多久島 和

(佐賀県教育センター研修三課長)

最後になりましたが、御応募いただきました先生方に厚くお礼申し上げます。